

製品名: CSN1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab09457

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GPS1
別名	GPS1; COPS1; CSN1; COP9 signalosome complex subunit 1; SGN1; Signalosome subunit 1; G protein pathway suppressor 1; GPS-1; JAB1-containing signalosome subunit 1; Protein MFH
遺伝子 ID	2873.0
SwissProt ID	Q13098
免疫原	抗血清はヒト COPS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 420-469

背景

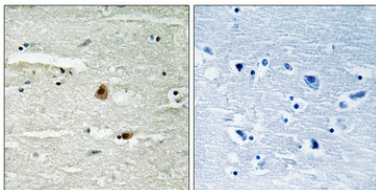
この遺伝子は、哺乳類細胞における G タンパク質およびマイトジェン活性化シグナル伝達を抑制することが知られています。コード

されているタンパク質は、植物細胞における光依存性シグナル伝達の調節因子であるシロイヌナズナ FUS6 と高い類似性を有しています。[RefSeq 提供、2016年3月],ドメイン: 脱ネディル化活性および CSN 複合体形成には必須ではない N 末端領域 (1-216) は、c-fos/FOS 発現の抑制など、CSN 複合体機能の他の側面には不可欠です。ドメイン: PCI ドメインは、複合体の他の CSN サブユニットとの相互作用に必要かつ十分です。CAPN8 との相互作用を媒介します。機能: 様々な細胞プロセスおよび発生プロセスに関与する複合体である COP9 シグナロソーム複合体 (CSN) の必須構成要素です。CSN 複合体は、SCF 型 E3 リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱エデジル化を媒介することで、ユビキチン (Ubl) 結合経路の重要な調節因子であり、SCF、CSA、DDB2 などの SCF 型複合体の Ubl リガーゼ活性を低下させます。また、この複合体は、おそらく CK2 および PKD キナーゼとの会合を介して、p53/TP53、c-jun/JUN、IkappaBalpha/NFKBIA、ITPK1、および IRF8/ICSBP のリン酸化にも関与しています。CSN 依存性の TP53 および JUN のリン酸化は、それぞれ Ubl システムによる分解を促進し、保護します。G タンパク質およびミトゲン活性化プロテインキナーゼ (MKI) を介したシグナル伝達を抑制する。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: CSN1 ファミリーに属する。類似性: 1つの PCI ドメインを含む。サブユニット: CSN 複合体の構成要素であり、COPS1/GPS1、COPS2、COPS3、COPS4、COPS5、COP6、COPS7 (COPS7A または COPS7B)、および COPS8 から構成される。複合体において、COPS2、COPS3、COPS4、および CSN5 と直接相互作用すると考えられる。イノシトールキナーゼ ITPK1 と直接相互作用する。CAPN8 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。